

令和元年度 学校経営計画・学校評価

|             |  |                   |   |
|-------------|--|-------------------|---|
| 高知県の教育の基本理念 | (1)学ぶ意欲にあふれ、心豊かたたくましく夢に向かって羽ばたき子どもたち<br>(2)郷土への愛着と誇りを持ち、高い志を掲げ、日本や高知の未来を切り拓く人材 | 取組の方向性            | ①チーム学校の構築<br>②厳しい環境にある子どもたちへの支援<br>③地域との連携・協働   |
| 目指すべき姿      | (1)生徒が誇りと自信を持って生き生きと学ぶ学校<br>(2)進路を確実に保障する学校<br>(3)地域に信頼される学校                   | 目指すべき姿を実現するための取組等 | (1)学力の定着・向上<br>(2)社会性の育成<br>(3)健全な心身の育成<br>(4)探究活動の推進<br>(5)国際交流活動の推進<br>(6)学校・家庭・地域の連携強化 |
| 生徒像         | (1)自他に対して誠実で、誇りを持ち、何事に対しても貫徹できる生徒<br>(2)知・徳・体の調和が取れており、地域社会に貢献できる生徒            |                   |   |

【重点項目：生徒に対する取組項目】

| 育成を目指す資質・能力【P】 | 現状と目標（評価指標）  | 具体的な取組内容【D】  | 中間評価【C】  | 中間評価後の取組内容【P-D】  | 年度末評価【C】  | 見直しのポイント【A】   |
|----------------|--|--|--|--|---|---|
| 学力の向上          | 【現状】<br>①4月時の基礎力診断テスト結果(3教科総合)D60.5%<br>②国公立大学合格者19名(推薦入試以上の合格者1名、一般入試での合格者1名)<br>【目標】<br>①基礎的・基本的な知識及び技能<br>②思考力、判断力、表現力<br>③主体的に学習に取り組む態度(学習習慣を含む)   | 【目標について】<br>○単元内容の7割定着を目指す授業構成<br>○毎日の宿題、週末課題の提出と取組が十分な生徒に対する指導の徹底<br>【目標2について】<br>○大学生を活用した学習指導<br>○SNS利用の危険性についての啓発指導<br>○自主学習をせざるを得ない状況の構築<br>○AO、推薦入試受験希望者に対する進路管理の徹底<br>○模擬試験に対応した進路補習の実施と進路管理の徹底<br>○模試結果の情報共有と対策の検討 | 1<br>D層の割合は51.1%であり、設定目標を達成できていない。D3層も2年9月時に対して増加(11名→19名)している。英語に苦手意識を持つている生徒に対する基礎学力の定着が課題である。<br>①授業外学習時間60分/日以上(4月時) 1年生60.8% 2年生51.6% (4月時) 1年生61.9% 2年生71.7%<br>2<br>①自主学習時間(6月時) 3時間/日以上 12.5%(3名) 2時間/日以上 37.5%(9名)<br>②教科総合平均点偏差値50以上 6月マール1名(48名) 7月記述0(49名) | 【目標1について】<br>基本的には、当初に設定した取組内容を継続して進める。とりわけ、英語の語彙が不十分であることから、英単語学習が課題である。また、授業外学習が全てできていない生徒が一定数いるが、面談指導等で粘り強く関わっていく。さらに、家庭学習の環境となつてスマートフォン等の利用について、SNS利用の危険性に触れながら啓発指導を進める。<br>【目標2について】<br>当初に設定した取組内容のほか、授業外学習時間の不足を改善するために、以下の取組を行う。<br>○ホームルーム担任・学年主任・進路指導主事による個別指導の徹底<br>○自主学習を利用し学習させる。 | 1<br>①授業外学習時間60分/日以上 4月時 11月時 1年生 60.8% 49.5%(51名) 2年生 61.6% 61.5%(66名)<br>②スマートフォン等の利用2時間/日以上 4月時 3月時 12月時 1年生 61.9% 82.2% 78.7% 2年生 71.7% 74.4% 77.5%<br>C 2<br>①自主学習時間(12月時) 3時間/日以上 13.7%(7名) 2時間/日以上 7.8%(4名)<br>②教科総合平均点偏差値50以上(受験者数) 6月マール1名(48名) 7月記述0名(49名) 9月マール0名(33名)10月記述0名(25名) 11月マール0名(29名) マール試験自己採点結果(42名受験) 得点率6割以上2名、5割以上4名 | 令和2年度より、1年生は3学科体制になるが、各学科のねらいに応じて学力目標を設定し、教育計画を実行する。                |
| 社会性の育成         | 【現状】<br>総合的な学習の時間における地域課題解決学習や地域でのボランティア活動等の成果として、学年を過ごすにかなう力(1)は身に付いている。その一方で、2年時に出席名簿の提出が生じる傾向にあり、「やりぬく力」の形成が課題となっている。<br>【目標】<br>①学期末の学習成績優良者を30%以上にする。(2年生対象)<br>②学期末の出席状況における積極・積極者の割合を50%以上にする。(2年生対象) | ○学年団・ホームルームにおける指導の充実<br>○委員会及び(同)ホームルームにおいて、責務精神を持つことの大切さを理解させる。<br>○部活動等やり続けることの大切さをキャプテン会やクラブで指導する。  | ①1学期末の学習成績優良者(2年生) 41.7%(43名)<br>②1学期末の積極・積極者の割合(2年生) 45.2%(47名)<br>模試試験結果(国英数総合)31名 1年7月40.2 11月39.8 1月41.4 2年7月42.9 11月42.0 平均点偏差値50以上(7月結果) 国英数各2名 国語6名 数学3名 英語6名 高知県オアシソナリアンサー(9月実施)において99.0%の(パネルメンバー)11月4日時にして肯定回答が敬減(有意差は認められない)                                | ○引き続き、学年団・ホームルームにおける指導を充実する。<br>○部活動の意義や部活動を通して得られる価値や関係性について、全校集会等で伝えるようにする。  | 【2年生対象】<br>①学習成績優良者 1学期末 2学期末 学年末 41.7%(43名) 32.0%(33名) 41.7%<br>②積極・積極者の割合 1学期末 学年末 45.6%(47名) 45.6%(47名)<br>模試試験結果(国英数総合)31名 1年7月40.2 11月39.8 1月41.4 2年7月42.9 11月42.0 2月39.7 平均点偏差値50以上12月結果 国英数各2名 国語12名 数学1A1名 数学II2名 英語6名  | 次年度も、所謂「中だるみ」期とされる2年生を対象に進路管理を図る。学習成績優良者及び部活動者の割合を高められるよう、指導の充実を図る。 |

【チーム学校：教職員が取り組む項目】

| 取組のねらい【P】 | 現状と目標（評価指標）  | 具体的な取組内容【D】   | 中間評価【C】   | 中間評価後の取組内容【P-D】  | 年度末評価【C】  | 見直しのポイント【A】  |   |
|-----------|--|---|---|--|---|--|---|
| 授業改善      | ○主体的・対話的に向けた授業改善を通して、特色ある教育活動を展開する。  | ・1学校の授業は、よく理解できている」と回答した生徒の割合を85%以上にする。<br>・1学校の授業は、学んだ知識を基に自ら考え、まとめたり、発表したりする機会がある」と回答した生徒の割合を100%にする。<br>・1学校の授業で、学習意欲が自らあふれる場面が設定されている」と回答した生徒の割合を100%にする。 | ○教科会の充実<br>○外部講師を招聘しての授業授業及び研究授業の実施<br>○教員間の相互授業参観の充実   | 1「学校の授業は、よく理解できている」と生徒1年生4.8%(82.9%) 2年生52.6%(60.7%)、3年生73.8%(57.6%)<br>2学期末の成績不振者(欠点所有者、時数不足に欠点含む) 1年生 34名(30.6%) 2年生 12名(11.7%) 3年生 16名(11.9%) | ○教育課程検討委員会(学力向上検討委員会)を開催し、課題の共有を図る。<br>○11月に授業参観制度を改訂し、相互参観及び研究協議を行う。その際、授業評価アンケート結果も活用し、授業改善につなげる。                     | 授業に対する生徒の評価(4月、9月、12月) ○「授業は、よく理解できている」 67.1%、67.1%、73.1%<br>○「学んだ知識を基に自ら考え、まとめたり、発表したりする機会がある」 82.0%、77.0%、82.1%<br>○「学習活動を自らあふらせる場面が設定されている」 68.0%、66.9%、68.5% | 教科会で、授業の構成や中心発問、授業方法等について、議論できる環境を構築する。 |
| 生徒指導・生徒支援 | ○生徒に寄り添い、一人一人の状況や特性、気持ちを見えたとともに、生徒の実態や内面を共感的に理解する。<br>○生徒への目標設定を下げず、決められたことを守らせ、やり続ける。 | ・出席不良者(30日以上欠席/年)を2%以下にする。<br>・学年会の実施(毎週)<br>・特別支援教育校内委員会の実施(毎月)<br>・地域課題解決学習担当者会の実施(毎週)<br>・ホーム面談の充実   | 1一学期始業者の割合 50.1% 1年生 65名(60.2%) 2年生 47名(45.8%) 3年生 67名(45.9%)<br>出席不良者(10日以上欠席/学期) 5.6% 1年生 4名(3.7%) 2年生 4名(3.9%) 3年生 12名(8.2%)<br>全学年より、4月時に対して自己肯定感が高まっている。 | 不登校傾向にある出席不良者については、○OASやW、市社会福祉協議会と連携を取りながら対応していく。   | 皆勤者の割合 一学期末 二学期末 学年末 1年生 28.3% 29.3% 29.3% 2年生 23.3% 3年生 33.6%<br>出席不良者の割合(30日以上欠席) 一学期末 学年末 1年生 4.7% 2年生 1.9% 3年生 2.8% | 不登校傾向にある生徒の増加が見込まれる中、コーディネーターを中心に校内機関・関係者との連携を一層進める。   |   |
| 学校の振興     | ○地域の中学校から信頼される学校づくりを行う。また、学校の特色として「探究する学校」を打ち出す。                                       | ・A日入試における地域の中学校からの出願者を50%以上にする。(H31年度入試結果21.2%)   | オープンスクール参加者 73名<br>中学生・日体輸入参加者 211名<br>中学校訪問による中学生への説明 15校561名<br>中学校訪問による3年担任への説明 15校66名(10月17日現在)   | 引き続き、結果の中学校・塾を訪問し、探究科を中心とした説明会を実施する。   | A日入試出願者数(出願倍率) 普通科 87名(1.1倍) グローバル探究科 24名(0.3倍) ビジネス探究科 15名(0.4倍) 香美市内中学校からの出願率 30.5%                                   | 中学校・塾・メディアと連携しながら広報活動を進める。   |   |
| 働き方改革     | ○教育に対する情熱を持たせ、合理的かつ協働的に業務に取り組む職場環境を整備する。   | ・原則19時の退勤に努める。<br>・毎週水曜日を部活動休業日とし、できる限り平日時間での退勤に努める。<br>・週休日の部活動参加を3割とする。<br>・衛生委員会を開催し、職員の健康管理を行う。(毎月)   | 60時間を超える時間外労働従事者数 4月10名 5月11名 6月7名 7月5名 8月0名 9月9名   | 声掛けを行い、19時の退勤に努める。   | 60時間を超える時間外労働従事者数 4月10名 5月11名 6月7名 7月5名 8月0名 9月9名 10月4名 11月8名 12月2名 1月2名 2月1名 3月名                                       | 長時間勤務からの脱却が認められつつある。意識の浸透が行動化につながること、次年度以降は積極的な声掛けと組織風土の構築に努める。  |   |

全日制

高知県立山田 高等学校

| 学校関係者評価   |         |
|---|---------|
| 【学力の向上】   | 評価【 C 】 |
| 基礎的・基本的な学力については、教科指導力が向上していることから、基礎力診断テストの成果となって表れている。一方で、基礎的な学力や主体的に学ぶ態度(学習習慣)については依然として課題が残る。令和2年度より3学科体制になるが、各学科のねらいに応じて学力目標を設定し、教育計画を実行する必要がある。 |         |
| 【社会性の育成】  | 評価【 B 】 |
| 所謂「中だるみ」期とされる2年生を対象に自己評価を行った。コミュニケーション能力及びキャリアデザイン能力の向上については、地域課題探究学習プログラムが有効に作用したことより、目標を概ね達成することができた。しかしながら、協働性や目標に向けてやり抜くという点で課題のある生徒が一定いる。      |         |
| 【チーム学校】   | 評価【 B 】 |
| 生徒の成長を促したり学校の活性化に繋がりするために、教育課程検討委員会をはじめ教科会、地域課題探究担当者、生徒支援委員会、そして特別支援委員会等を開催し、教職員がチームとして取り組んできたことは評価できる。次年度に向けては、一層結果につながる効果のある取組を意識して展開することが課題である。  |         |

(評価)A:目標を十分に達成 B:目標を概ね達成 C:やや不十分 D:不十分